

不登校生の声伝え15年



いじめや不登校に関する記事が並ぶ「Fonte」の紙面

都内のNPO発行新聞「Fonte」

NPO法人「全国不登校新聞社」（東京）は、月2回発行の新聞「Fonte（フォンテ）」が今年、創刊15周年を迎えたのを機に、長野市など全国10カ所

講演会と交流会を開く。フォンテは不登校やいじめ、引きこもりの経験者ら延べ1100人以上の声を伝え、不安や悩みを解消するヒントを紹介。編集長の石井志昂さん(31)は「当事者の生の感情を大事にしてきた。学校に行くか、死ぬかにまで追い詰められた人に、それ以外の道もあると伝えていきたい」と話している。

経験者が執筆 全国に読者

長野で31日 記念の講演会と交流会

同社はフリースクールの運営などで不登校の子どもを支援してきた人たちが設立し、1998年5月に「不登校新聞」を創刊。2004年にフォンテに名称変更した。現在はタブロイド判、8ページ、約1500部発行している。購読料は月800円。

記事のテーマは不登校が中心で、経験者のさまざまな手記や各地のフリースクール、親の会に関する情報、6月に成立したいじめ防止対策推進法に絡む記事などを掲載してきた。手記は不登校などを経験した15〜33歳の44人で行く「子ども若者編集部」が執筆を担当し、投稿も受け付けている。

中学時代に不登校を経験した県内の30代女性も同編集部に加わっており、月1回ほど東京して編集作業に当たっている。新聞作りに関わることで「社会との接点ができて救われた」と話す。

読者は全国に広がっており、不登校の子ども親でつくる長野市の民間組織「ブルースカイ」代表の松田恵子さん(62)も10年ほど前に購読を始めたといい、「不登校だった人たちが、それぞれの人生を送っていることが分かって安心できる」と話している。

フォンテの部数は12年4月に800部まで減り、存続が危ぶまれた。だが、大津市の男子中学生がいじめを苦に自殺した事件が同年夏に明らかになり、再び読者が増えたという。

長野市での講演会、交流会は31日午後1時から、長野市鶴賀の市障害者福祉センターで。石井さんと、引きこもりをテーマにフォンテに連載記事を書いている石崎森人さん(30)が話す。無料。問い合わせは同新聞社東京編集部(☎03・59633・5526)へ。